

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 上記基準日 定時株主総会については3月31日
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
 剰余金の配当受領株主確定日 期末配当金については3月31日
 中間配当金については9月30日
 (当期は中間配当を実施していません。)
 単元株式数 100株
 公告掲載新聞 日本経済新聞
 株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先) 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
 (電話照会先)
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村証券株式会社 全国本支店
 証券・銘柄コード 7458

<お知らせ>

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙、及び株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。
- 当社は、貸借対照表及び損益計算書並びに連結貸借対照表及び連結損益計算書を当社ホームページ (<http://www.dkkaoko.co.jp/>) に掲載しております。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、企業情報をはじめ、ニュースリリースや投資家情報等当社に関する様々な情報を掲載しております。イベントやエンターテインメント情報満載の「clubDAM.com」にもリンクしていますので、是非アクセスしてみてください。



<http://www.dkkaoko.co.jp/>

ECHO

Vol.23 第32期 決算のご報告
 2006年4月1日～2007年3月31日

CONTENTS

- 企業CM
- 株主の皆様へ
- 第一興商グループ 事業ドメイン
- セグメント別概況
- 連結決算概要
- 単体決算概要
- 株式の状況
- 会社概要
- DKプロモーション



うたう未来へ――

ヒトはなぜうたうのでしょうか。

嬉しいときも、
悲しいときも、
ヒトはうたいます。

うたは思いを伝える
最高の表現だからです。

私たち
第一興商は、
うたのすばらしさを
もっともっと
伝えていきたい。

だから、
うたの原点を大切に
そして、未来に向かいます。



To Our Shareholders

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第32期(2006年4月1日～2007年3月31日)の決算をご報告いたします。

当社グループは、創業以来、カラオケ業界におけるリーディングカンパニーとして業容を拡大してまいりました。

今、我々の使命は、うた・音楽を最高のかたちで表現する「カラオケ」のすばらしさを、一人でも多くの方に伝えていくことと考えております。

その思いを込めて、企業コマースでのメッセージを、左のページに掲載させていただきました。

今後も強みであるカラオケ事業を中心に未来へ向かって邁進し、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

和田 康孝



当期の概況

当期のわが国経済は、個人消費が伸び悩む一方、企業業績の好調を背景に設備投資の増加や雇用情勢の改善などから、景気は引き続き回復基調で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、個人消費の回復が遅れていることからスナック・クラブなどのナイト市場では未だ厳しい環境が続いているものの、カラオケボックスなどのデイ市場においては店舗運営の効率化を図るほか、集客の回復に向けた活発な事業展開も見受けられました。

このようななか、当社グループはビジネス領域の拡大に向け、業務用ネットワークのブロードバンド化に注力するとともに、カラオケルームと飲食店の複合店舗展開を進め集客の回復に努めるなど、各事業に積極的に取り組み、業容の拡大と収益の増大を目指してまいりました。

以上の結果、当期の売上高はカラオケ・飲食店舗事業が増収となったものの、業務用カラオケ事業や音楽ソフト事業の減収により124,654百万円(前期比3.6%減)となりました。一方、利益面におきましては、カラオケ・飲食店舗事業の大幅な増益やゲートウェイ事業の利益改善から営業利益は13,189百万円(同16.9%増)、経常利益は12,937百万円(同11.4%増)と過去最高となり、特別損失において減損損失の計上はあったものの、当期純利益は4,801百万円(同19.7%増)となりました。

来期の見通し

今後の経済環境につきましては、海外の景気動向のほか金利情勢など不透明感が残るものの、景気は緩やかながら拡大基調を維持していくものと予想しております。

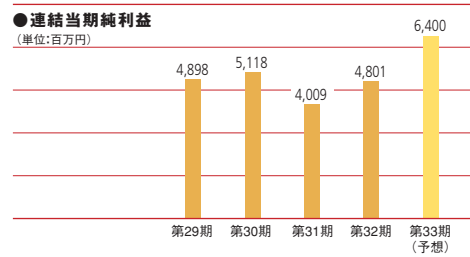
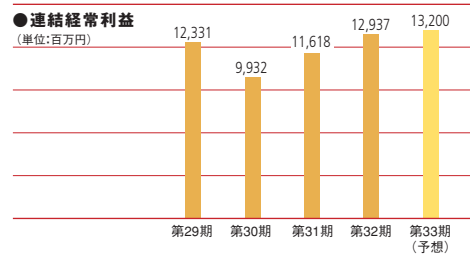
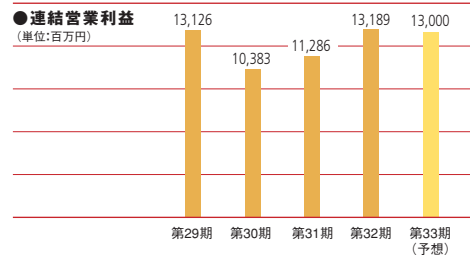
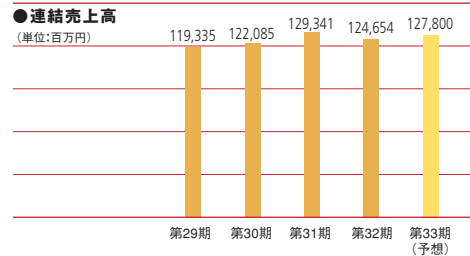
当社を取り巻く事業環境におきましては、業界での競争が続いていることから予断を許しませんが、個人消費も徐々に回復してきているなど明るい兆しも見えはじめてきております。

このようななか、当社グループにおきましては、カラオケ業界のリーディングカンパニーとして、常に先進性・信頼性・安全性をモットーに高品質な商品とサービスを提供する「顧客満足度ナンバーワン」企業を目指し、安定的な収益基盤の確立に努めてまいります。

また、「DAM」ブランドの更なる浸透を図るため、様々なメディアでエンドユーザー向けのプロモーション活動を積極的に展開し、顧客吸引力を一層高めてまいります。

来期の業績につきましては、売上高1,278億円、営業利益130億円、経常利益132億円、当期純利益64億円を計画しております。

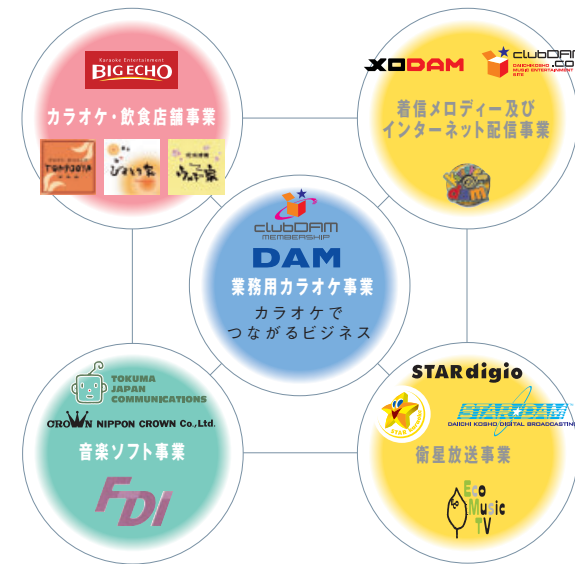
連結財務ハイライト



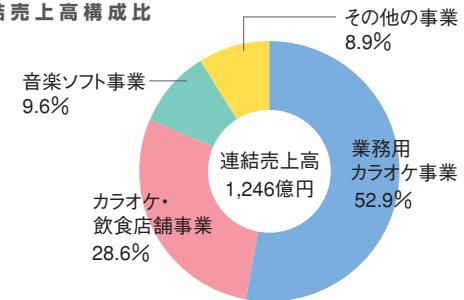
【カラオケを中心としたエンターテインメントを提供】

当期より事業の種類別セグメントを下記のとおり変更しております。

- 1.従来の事業区分である「ゲートウェイ事業」に含まれる「専用情報端末(DAMステーション)によるコンテンツサービスの提供」を「業務用カラオケ事業」へ変更いたします。
- 2.従来の事業区分である「ゲートウェイ事業」に含まれる「携帯電話によるコンテンツサービスの提供」を「その他の事業」へ変更いたします。



連結売上高構成品



(注)上記グラフは新年度からのセグメントの変更にとまない組み替え表示しております。

業務用カラオケ事業

業務用カラオケ機器・カラオケソフトの販売及び賃貸、並びに通信カラオケへの音源及び映像の提供を行っております。セグメントは業務用カラオケ事業に属しております。

カラオケ・飲食店舗事業

カラオケルーム「ビッグエコー」を211店舗(国内206店・海外5店)、飲食店舗を国内58店舗展開しております。セグメントはカラオケ・飲食店舗事業に属しております。
※店舗数は2007年3月31日現在

音楽ソフト事業

音楽レコード会社2社及び販売会社1社並びに映像制作会社1社において音楽・映像ソフトの制作、販売を行っております。また、音楽出版会社4社において著作権管理を行っております。セグメントは音楽ソフト事業に属しております。

着信メロディー及びインターネット配信事業

携帯電話向け着信メロディー配信を中心とした様々なコンテンツ配信サービスを行うほか、カラオケのインターネット配信サービスを行っております。セグメントはその他の事業に属しております。

衛星放送事業

衛星デジタル放送「スカパーフェクTV!」をプラットフォームとし、テレビ2ch、ラジオ100chのサービスを行っております。セグメントはその他の事業に属しております。

その他の事業

主に不動産賃貸事業を行っており、セグメントはその他の事業に属しております。

業務用カラオケ事業

当事業におきましては、当社の通信カラオケ稼働台数シェアは50%を超えておりますが、そのブロードバンド化を進めるため、対応機種である「ブロードバンドサイバーDAM」シリーズを中心に販売及び賃貸に注力してまいりました。また、情報端末「DAMステーション」によるコンテンツサービスが「ブロードバンドサイバーDAM」シリーズの差別化に寄与するなど、機種の入替は順調に進行いたしました。

このようななか、情報提供料収入につきましては、カラオケコンテンツの情報提供料単価が上昇したことなどにより着実に増加いたしました。しかしながら、商品売上高につきましては卸売価格の改定と新商品の発売を見越した買い控えにより減少し、また機器賃貸収入も賃貸単価の低下から僅かに減少いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前期比7.2%減少となり、営業利益は前期比9.6%減少となりました。

今後の取り組みにつきましては、4月に発売したフラッグシップ新商品「プレミアDAM(DAM-XG1000)」を柱とし「DAM」シリーズの拡販に注力してまいります。

「プレミアDAM」は、業界最高水準の高品質な映像と音を再現し、また音楽業界大手とコラボレーションした付加価値の高いコンテンツを豊富に取り揃えるほか、大容量のハードディスクを搭載し、様々なデジタルメディアと連動できる高い拡張性を備えております。引き続きプロモーションを積極的に行い、新商品の認知度向上に努めてまいります。

	前 期	当 期	対前期増減	増減率
売 上 高	69,672	64,685	△ 4,987	△ 7.2%
営 業 利 益	11,250	10,174	△ 1,076	△ 9.6%

(百万円)

主要数値

	単 位	前 期	当 期	対前期増減	増減率
DAM出荷台数	千台	37	29	△ 8	△ 21.6%
機器賃貸契約件数・期末	千件	55	55	0	0.0%
DAM稼働台数・期末	千台	209	209	0	0.0%
(うちブロードバンド稼働台数)	千台	(68)	(79)	(11)	16.2%

TOPICS (業務用カラオケ事業)

「プレミアDAM」が生み出す
新たなエンターテインメント

POINT

1. 業界初、7インチカラー液晶モニターを搭載! タッチセンサーによるフラットでスタイリッシュなデザイン!!
2. 音楽ファン待望のコラボレーションが実現! カラオケがもっと楽しくなる新コンテンツが満載!!
3. ワンセグ・iPod・SDカードなどに対応! これまでにないオプション機能の充実!!

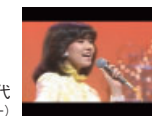
■カラオケ背景映像

◎LIVE カラオケ

人気アーティストのライブ映像



BoA(avex trax)

◎なつかしの
アイドル映像松本伊代
(ビーカンパニー)◎海外アーティスト
本人出演映像

キムジャンフン

◎アニメ・
特撮ヒーロー映像テニスの王子様
©許斐剛 TK WORKS/
集英社・テレビ東京・NAS

■新商品

プレミアDAM(DAM-XG1000)
2007年4月発売PremierDAM
Music Style

ワンセグ

iPod

SDカード

■DAMステーション

「プレミアDAM」の楽しさをもっと広げる
コンテンツが満載!

■楽曲&サウンド

◎楽曲数:

約 87,000曲収録(2007年4月)

◎全曲配信アーティストが多数実現

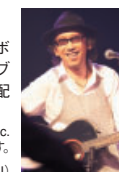
◎生音演奏楽曲

プロの演奏家による臨場感あふれる音を実現。

■コンテンツ

◎MTV コラボ

MTVジャパン(株)とのコラボレーション。MTVだけのライブ映像やオリジナル番組を配信。MTVは、Viacom International Inc.(MTV Networks)の登録商標です。布袋寅泰(東芝EMI)



◎JUQUest コラボ

(株)ソニー・ミュージックコミュニケーションズとのコラボレーションにより実現したジュークボックス。※DAMステーション専用コンテンツ

◎DAM the Movie コラボ

人気若手女優が出演するショートムービー。



©mobcast inc.

◎即席カラオケCDプレス

歌ったカラオケをその場でCDに録音できるサービス。

◎完唱! 歌いきりまショー!!

持ち時間があり0秒になると演奏がSTOP。最後まで歌いきれるかどうかを競う採点ゲーム。



◎精密採点II

歌唱中、画面上部にガイドメロディーが表示。メロディーどおりに歌えているかが一目瞭然!



※iPodは、米国及びその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標または登録商標です。その他、記載の商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

カラオケ・飲食店舗事業

当事業におきましては、カラオケルーム「ビッグエコー」において不採算店17店舗を閉店し収益改善を図るほか、好立地で13店舗を開店するなど積極的なスクラップアンドビルドを実施いたしました。また、飲食店舗におきましては4店舗を閉店する一方、14店舗を新規出店し業容の拡大に努めてまいりました。この結果、当期末現在でビッグエコーが211店舗(国内206・海外5)、飲食店は14ブランドの58店舗(国内58)が稼働しております。このうち、ビッグエコーに飲食店舗を併設する複合店舗は19店舗に拡大しており、その相乗効果による稼働率の改善と収益の向上を図ってまいりました。

以上の結果、当事業の売上高は飲食店舗数が大幅に増加したことから、前期比7.1%増加となり、また店舗の複合化による収益の改善や、固定費をはじめとするコスト削減効果が確実に表れたことから、営業利益は前期比59.2%増と大幅な増加となりました。

今後の取り組みにつきましては、ビッグエコーや飲食店舗の多店舗展開及び複合型店舗展開を進めてまいります。更に、これまで蓄積してきた店舗運営のノウハウを積極的に活用し、飲食を中心とした新業態の店舗開発を進め、集客力の向上と収益の拡大を目指してまいります。

	前 期	当 期	対前期増減	増減率
売 上 高	33,307	35,681	2,373	7.1%
営 業 利 益	3,206	5,105	1,898	59.2%

(百万円)

主要数値

	単 位	前 期	当 期	対前期増減	増減率
ビッグエコー店舗数・期末	店	210	206	△ 4	△ 1.9%
(うち複合店舗数)	店	(10)	(19)	(9)	90.0%
” ルーム数	ルーム	6,277	6,146	△ 131	△ 2.1%
飲食店舗数・期末	店	47	58	11	23.4%
” 座席数	席	5,460	6,702	1,242	22.7%

(注)上記数値には海外店舗を含んでおりません。

TOPICS (カラオケ・飲食店舗事業)

立地・マーケティングに適した出店モデルでお客様の満足度をアップ

- POINT**
1. 単独出店も好調! 和・洋・エスニックなど様々なブランドで約60店舗を展開する飲食店!!
 2. 最新設備とサービスに自信! 200店舗以上のカラオケルームを展開するビッグエコー!!
 3. 本格的飲食ノウハウとメジャーなカラオケチェーンの実力! 他の追随を許さない出店バリエーション!!

● カラオケと飲食を複合化



ビッグエコー松山二番町店と「楽蔵」(愛媛県)

● カラオケと飲食をフレキシブルに利用できる個室フロアを配置



ビッグエコー品川駅前店と「ウメ子の家」、「せせらぎを聴きながら」(港区)

■ カラオケと飲食が楽しめるフロア

● 新業態として、カラオケ付き個室飲食店を出店



「個室宴会 楽蔵うたげ」八重洲店 (中央区)

■ カラオケ付き個室



ゲートウェイ事業

当事業におきましては、携帯電話向けコンテンツ配信サービスと情報端末「DAMステーション」によるブロードバンドコンテンツサービスを行ってまいりました。

携帯電話向けサービスにおきましては、主力サービスである「着信メロディー」の加入者数が減少いたしました。一方、「DAMステーション」のコンテンツサービスは、カラオケの新しい遊び方として定着し、また「ブロードバンドサイバーDAM」シリーズの差別化に大きく寄与いたしました。更に、その認知度も向上したことから、端末の利用会員数とコンテンツの利用回数はともに増加いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は、携帯電話向けサービス収入が減少したことから前期比11.6%減少となったものの、営業費用の大幅な

圧縮により営業損失は前期に比べ1,023百万円の改善となりました。

なお、当事業につきましては、事業方針の見直しにより減損損失を計上するとともに、新年度より情報端末「DAMステーション」によるコンテンツサービスを「業務用カラオケ事業」に含め、また携帯電話向けコンテンツサービスを「その他の事業」に含めることといたしました。

	前 期	当 期	対前期増減	増減率
売上高	4,780	4,227	△ 553	△ 11.6%
営業利益	△ 2,457	△ 1,434	1,023	—

音楽ソフト事業

当事業におきましては、レコード子会社である日本クラウン(株)の「Gackt」や(株)徳間ジャパンコミュニケーションズの「リュ・シウォン」をはじめとする主力アーティストの商品販売が堅調に推移するほか、音楽配信による着実な収益への貢献もありました。一方、前期に発売した映像ソフト「ハウルの動く城」など大型作品の発売が当期においてはなかったことから、売上高は大きく減少いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前期比16.0%減少となり、営業利益は前期比65.7%減少いたしました。

今後の取り組みにつきましては、更なる経営の効率化を図り黒字の定着化を目指してまいります。また新人アーティストの発掘・育成及びヒット曲の創造については、引き続き当社グループの総合力を活かした積極的なプロデュース活動を展開してまいります。

	前 期	当 期	対前期増減	増減率
売上高	14,261	11,982	△ 2,278	△ 16.0%
営業利益	439	150	△ 288	△ 65.7%

その他の事業

当事業におきましては、「スカイパーフェクTV!」をプラットフォームとする衛星放送事業と不動産賃貸事業を含むその他の事業を行っております。

衛星放送事業におきましては、業務用サービスの契約件数は横ばいで推移しておりますが、民生用サービスについては「スカイパーフェクTV!」のバックサービスが見直されたことから契約件数は増加し、またコストコントロールの継続により安定した収益を確保しております。また、不動産賃貸事業などその他の事業におきましても堅調に推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前期比10.4%増加となりましたが、新規に開始した事業の営業費用が増加したことから営業利益は前期比

5.9%減少となりました。

今後の取り組みにつきましては、衛星放送事業や携帯電話向けコンテンツサービスの加入者数の増加を目指してまいります。また外食マーケットで需要が高まっているオーダーリングシステム「サブリバ」を本格的に投入し、事業の新たな可能性と需要の創出に積極的に取り組んでまいります。

	前 期	当 期	対前期増減	増減率
売上高	7,319	8,077	757	10.4%
営業利益	1,896	1,785	△ 111	△ 5.9%

TOPICS (音楽ソフト事業)

■日本クラウン創立45周年 新人オーディション開催

日本クラウン(株)は創立45周年を迎えるにあたり、強力新人発掘のためのオーディションを行います。厳選なる予選を突破し、7月29日(日)に行われる本選でグランプリ1名・準グランプリ数名が決定します。グランプリ受賞者は、45周年期間中にメジャーデビュー。大型新人アーティスト誕生にご期待ください!



CROWN NIPPON CROWN Co.,Ltd.

■「ゲド戦記」 7月4日(水)DVD発売

スタジオジブリシリーズ「ゲド戦記」がついにDVD化! 特別版はピクチャーディスク4枚組で、アレン役岡田准一出演の特別番組やゲド戦記音図鑑など、ファン垂涎の特典が満載です。コレクターにとって貴重な一枚になること間違いありません!



©2006 二馬力・GNDDDT

■吉川 晃司 ニューアルバム発売

精力的なシングル・リリースを経て放つ、待望の4年ぶりオリジナルアルバムを発売。デビューして23年目となった今でも人気の衰えない彼が、ニューアルバムをひっさげての全国ツアーを決定。その名も「TARZAN!」。今年の夏は「TARZAN!」で燃えつくそう!



TOKUMA JAPAN COMMUNICATIONS



TOPICS (その他の事業)

オーダーリングシステム「サブリバ」の推進 POINT 顧客満足度アップ! 店舗経営の効率化!!

導入メリット

■お客様

- ◎画面に触れるだけで簡単に注文ができる
- ◎注文時の待ち時間を解消
- ◎言った言わないのオーダートラブルの減少
- ◎料理提供までの待ち時間に様々なコンテンツが楽しめる
(※コンテンツ有料)

- 顧客満足度向上
- 店舗への売上貢献



■店舗側

- ◎触れるだけのオーダーは追加注文を生み客単価がアップ
- ◎オーダーを取る時間の減少でお客様へのサービスが充実
- ◎聞き間違いによるオーダーミスの減少
- ◎メニューの変更が簡単にできるため作成コストが削減

連結貸借対照表の要旨

科目	第32期		対前期 増減額
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在	
資産の部			
流動資産	52,210	49,965	2,244
固定資産	78,720	83,558	△ 4,838
有形固定資産	44,318	47,638	△ 3,320
無形固定資産	6,074	7,950	△ 1,875
投資その他の資産	28,327	27,969	357
資産合計	130,931	133,524	△ 2,593
負債の部			
流動負債	36,943	37,815	△ 872
固定負債	25,198	28,502	△ 3,303
負債合計	62,142	66,318	△ 4,175
少数株主持分			
少数株主持分	—	764	△ 764
資本の部			
資本金	—	12,350	△ 12,350
資本剰余金	—	24,003	△ 24,003
利益剰余金	—	32,029	△ 32,029
土地再評価差額金	—	△ 845	845
其他有価証券評価差額金	—	2,354	△ 2,354
為替換算調整勘定	—	188	△ 188
自己株式	—	△ 3,639	3,639
資本合計	—	66,440	△ 66,440
負債、少数株主持分及び資本合計	—	133,524	△ 133,524

(単位:百万円)

科目	第32期		対前期 増減額
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在	
純資産の部			
株主資本	68,384	—	68,384
資本金	12,350	—	12,350
資本剰余金	24,003	—	24,003
利益剰余金	35,671	—	35,671
自己株式	△ 3,641	—	△ 3,641
評価・換算差額等	△ 493	—	△ 493
其他有価証券評価差額金	123	—	123
土地再評価差額金	△ 845	—	△ 845
為替換算調整勘定	229	—	229
少数株主持分	897	—	897
純資産合計	68,788	—	68,788
負債及び純資産合計	130,931	—	130,931

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書の要旨

科目	第32期		対前期比 (%)
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで	
●営業収益	124,654	129,341	96.4
営業費用	111,570	118,144	94.4
割賦販売未実現利益	106	89	
●営業利益	13,189	11,286	116.9
営業外収益	1,781	2,184	
営業外費用	2,033	1,852	
経常利益	12,937	11,618	111.4
特別利益	857	599	
特別損失	4,451	4,107	
税金等調整前当期純利益	9,343	8,110	115.2
法人税、住民税及び事業税	4,171	2,062	
法人税等調整額	238	2,041	
少数株主利益(△損失)	132	△ 3	
当期純利益	4,801	4,009	119.7

(単位:百万円)

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

〈注記事項〉	第32期	第31期
1. 有形固定資産の減価償却累計額	49,981百万円	48,402百万円
2. 保証債務	693百万円	909百万円
3. 担保提供資産	10,199百万円	13,787百万円
上記に対応する債務	7,674百万円	11,567百万円
4. 1株当たり当期純利益	68円99銭	112円60銭
5. 1株当たり純資産額	975円44銭	1,906円58銭

※当社は2006年7月1日をもって普通株式1株を2株に分割しており、1株当たり指標については当該株式分割が当期首に行われたものとして算出しております。

! point

流動資産

流動資産の増加2,244百万円は現金及び預金の増加7,671百万円、たな卸資産の減少2,589百万円、受取手形及び売掛金の減少2,498百万円が主なものです。

固定資産

固定資産の減少4,838百万円はゲートウェイ事業に係る減損処理2,168百万円のほか、カラオケルーム及び飲食店舗設備の減少1,040百万円が主なものです。

流動負債

流動負債の減少872百万円は短期借入金の減少2,946百万円、未払法人税等の増加1,978百万円が主なものです。

固定負債

固定負債の減少3,303百万円は長期借入金の減少2,792百万円、繰延税金負債の減少666百万円が主なものです。

! point

営業損益(●)

カラオケ・飲食店舗事業が増収となったものの、業務用カラオケ事業や音楽ソフト事業の減収により営業収益は前期比96.4%、124,654百万円となりました。一方、利益面におきましては、カラオケ・飲食店舗事業の大幅な増益やゲートウェイ事業の利益改善から営業利益は前期比116.9%、13,189百万円となりました。

当期純利益

営業利益、経常利益ともに過去最高となり、特別損失において減損損失の計上はあったものの、当期純利益は前期比119.7%、4,801百万円となりました。

! point

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
 - ・税金等調整前当期純利益9,343百万円
 - ・減価償却実施額 15,633百万円
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - ・有形固定資産の取得による支出 10,442百万円
 - ・無形固定資産の取得による支出 4,076百万円
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
 - ・長期借入金の返済による支出 14,848百万円
 - ・長期借入による収入 10,776百万円
 - ・短期借入金の純増減額の支出 1,667百万円

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

科目	第32期 2006年4月1日から 2007年3月31日まで		第31期 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	
	営業活動によるキャッシュ・フロー	32,509	24,081	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,059	△ 21,808		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,792	△ 2,018		
現金及び現金同等物に係る換算差額	38	141		
現金及び現金同等物の増加額	7,695	395		
現金及び現金同等物の期首残高	24,222	22,428		
新規連結子会社の増加に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	1,398		
現金及び現金同等物の期末残高	31,918	24,222		

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 第32期(2006年4月1日から2007年3月31日まで)

	株主資本				評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	土地再評 価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日残高	12,350	24,003	32,029	△ 3,639	64,743	2,354	△ 845	188	1,697	764	67,205
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当(注)			△ 1,044		△ 1,044						△ 1,044
役員賞与(注)			△ 115		△ 115						△ 115
当期純利益			4,801		4,801						4,801
自己株式の取得				△ 1	△ 1						△ 1
自己株式の処分		0		0	0						0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△ 2,231	—	40	△ 2,191	132	△ 2,058
連結会計年度中の変動額合計	—	0	3,642	△ 1	3,640	△ 2,231	—	40	△ 2,191	132	1,582
2007年3月31日残高	12,350	24,003	35,671	△ 3,641	68,384	123	△ 845	229	△ 493	897	68,788

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

貸借対照表の要旨

科目	第32期 2007年3月31日現在			第31期 2006年3月31日現在			対前期 増減額
	資産の部						
流動資産	29,424			27,486			1,938
固定資産	50,775			55,144			△ 4,368
有形固定資産	16,868			19,783			△ 2,915
無形固定資産	5,464			7,327			△ 1,862
投資その他の資産	28,442			28,033			409
資産合計	80,200			82,630			△ 2,430
負債の部							
流動負債	17,340			16,912			427
固定負債	10,670			12,547			△ 1,877
負債合計	28,010			29,460			△ 1,449
資本の部							
資本金	—			12,350			△ 12,350
資本剰余金	—			24,003			△ 24,003
利益剰余金	—			18,959			△ 18,959
土地再評価差額金	—			△ 845			845
その他有価証券評価差額金	—			2,342			△ 2,342
自己株式	—			△ 3,639			3,639
資本合計	—			53,169			△ 53,169
負債資本合計	—			82,630			△ 82,630
純資産の部							
株主資本	52,918			—			52,918
資本剰余金	12,350			—			12,350
利益剰余金	24,003			—			24,003
土地再評価差額金	—			20,206			20,206
自己株式	△ 3,641			—			△ 3,641
評価・換算差額等	△ 729			—			△ 729
その他有価証券評価差額金	116			—			116
土地再評価差額金	△ 845			—			△ 845
純資産合計	52,189			—			52,189
負債及び純資産合計	80,200			—			80,200

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書 第32期(2006年4月1日から2007年3月31日まで)

	株主資本											純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等			
	資本 準備金	資本 剰余金	利益 剰余金	資本剰余 金合計	利益剰余 金合計	自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	土地再評 価差額金	評価・換 算差額 等合計			
2006年3月31日残高	12,350	4,002	20,000	24,003	16,603	2,356	18,959	△ 3,639	51,673	2,342	△ 845	1,496	53,169
事業年度中の変動額													
剰余金の配当(注)										△ 1,044	△ 1,044		△ 1,044
役員賞与(注)										△ 20	△ 20		△ 20
当期純利益										2,310	2,310		2,310
自己株式の取得								△ 1	△ 1				△ 1
自己株式の処分				0	0			0	0				0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)											△ 2,225	—	△ 2,225
事業年度中の変動額合計	—	—	0	0	—	1,246	1,246	△ 1	1,245	△ 2,225	—	—	△ 980
2007年3月31日残高	12,350	4,002	20,000	24,003	16,603	3,603	20,206	△ 3,641	52,918	116	△ 845	△ 729	52,189

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

損益計算書の要旨

科目	第32期 2006年4月1日から 2007年3月31日まで			第31期 2005年4月1日から 2006年3月31日まで			対前期比 (%)
	営業収益	83,382	87,537	95.3			
営業費用	75,510	81,158	93.0				
営業利益	7,888	6,418	122.9				
営業外収益	1,385	1,105					
営業外費用	956	787					
経常利益	8,317	6,735	123.5				
特別利益	275	540					
特別損失	3,788	2,915					
税引前当期純利益	4,804	4,361	110.2				
法人税、住民税及び事業税	2,034	128					
法人税等調整額	460	1,899					
当期純利益	2,310	2,333	99.0				
前期繰越利益	—	971					
土地再評価差額金取崩額	—	△ 948					
当期末処分利益	—	2,356					

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

- (注記事項)
- | | 第32期 | 第31期 |
|-------------------|-----------|-----------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 23,393百万円 | 22,957百万円 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 33円20銭 | 66円48銭 |
| 3. 1株当たり純資産額 | 749円85銭 | 1,527円27銭 |

※当社は2006年7月1日をもって普通株式1株を2株に分割しており、1株当たり指標については当該株式分割が当期首に行われたものとして算出しております。

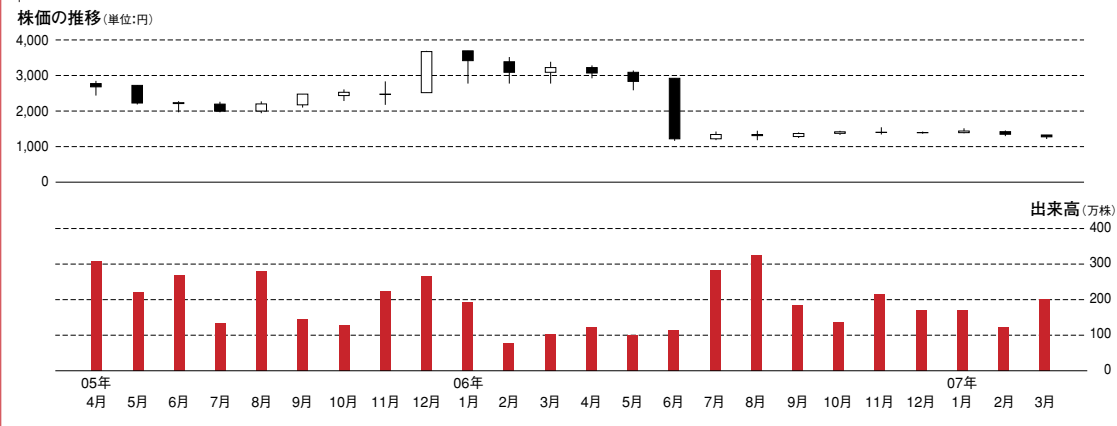
発行可能株式総数 200,000,000株 発行済株式の総数 73,242,596株 株主数 9,653名

大株主

株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
保志忠彦	10,444	15.0
日本スタートラスト信託銀行(株)(信託口)	5,474	7.8
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	5,060	7.2
(有)ホシ・クリエート	4,375	6.2
保志忠郊	3,069	4.4
保志治紀	3,020	4.3
バンクオブニューヨークヨーロッパ リミテッドルクセンブルグ131800	2,585	3.7
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,428	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	1,363	1.9
三菱UFJ信託銀行(株)	1,148	1.6

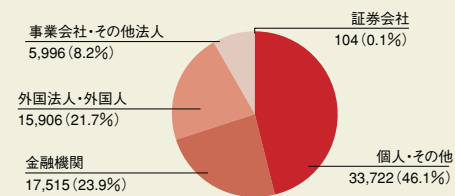
1. 当社は、自己株式3,642千株を保有しておりますが、議決権がないため上記株主から除いております。
2. 持株数、議決権比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株価(月足)チャート

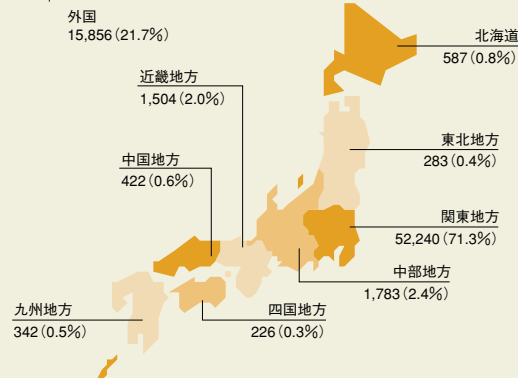


(注)2006年7月1日をもって普通株式1株を2株に分割いたしました。

所有者別株式分布 (単位:千株/構成比)



地域別株式分布 (単位:千株/構成比)



会社概要 (2007年3月31日現在)

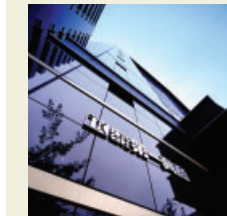
商号 株式会社 第一興商
(英文表記) DAIICHIKOSHO CO., LTD.
所在地 〒141-8701東京都品川区北品川5-5-26
TEL. (03) 3280-2151 (大代表)
設立 1973年4月16日
資本金 12,350百万円
従業員数 当社 1,374名
グループ 3,364名
JASDAQ上場 1995年9月19日
ホームページアドレス <http://www.dkkaraoke.co.jp/>

役員 (2007年6月23日現在)

代表取締役社長	和田 康孝
専務取締役 兼上席執行役員	青柳 泉
常務取締役 兼上席執行役員	林 三郎
常務取締役 兼上席執行役員	畑 英爾
常務取締役 兼上席執行役員	根本 賢一
取締役 兼執行役員	山本 裕治
取締役 兼執行役員	熊谷 達也
取締役 兼執行役員	村井 裕一
取締役 兼執行役員	三富 洋
取締役 兼執行役員	保志 忠郊
取締役	吉川 満
取締役	清水 義美
常勤監査役	掛川 洋
常勤監査役	高瀬 信行
監査役	田村 謙
監査役	有近 真澄
執行役員	有馬 伸治
執行役員	貞末 俊一
執行役員	三宅 彰
執行役員	黒川 憲太郎
執行役員	大久保 嘉英
執行役員	鈴木 剛

第一興商グループ
当社及び連結子会社
(2007年3月31日現在)

46社



- 主な事業内容
- 業務用カラオケ事業
 - カラオケ・飲食店舗事業
 - 音楽ソフト事業

国内販売子会社 26社

(株)北海道第一興商	(株)埼玉第一興商	(株)東海第一興商
(株)釧路第一興商	(株)城北第一興商	(株)北陸第一興商
(株)道南第一興商	(株)台東第一興商	(株)京都第一興商
(株)北東北第一興商	(株)城東第一興商	(株)第一興商近畿
(株)東北第一興商	(株)城西第一興商	(株)京阪第一興商
(株)福島第一興商	(株)湘南第一興商	(株)兵庫第一興商
(株)常磐第一興商	(株)新潟第一興商	(株)九州第一興商
(株)群馬第一興商	(株)長野第一興商	(株)沖縄第一興商
(株)栃木第一興商	(株)静岡第一興商	

その他国内子会社 10社

(株)ディーケーファイナンス	(株)ディーケー音楽出版
日本クラウン(株)	(株)クラウンミュージック
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	(株)スームリパブリック
(株)ファーストディストリビューション	ユニオン映画(株)
(株)トライエム	丸萩洋酒工業(株)

海外子会社 10社

(株)韓国第一興商	上海必愛歌音楽餐飲有限公司
第一興商(上海)電子有限公司	上海星歌音楽餐飲有限公司
第一興商電子貿易(上海)有限公司	上海申歌音楽餐飲有限公司
DAIICHIKOSHO(SINGAPORE) PTE LTD.	D.K.ENTERPRISES(GUAM), INC.
SAHA DAIICHIKOSHO CO.,LTD.	第一興商(北京)音楽文化有限公司

- (注)1. DAIICHIKOSHO (SINGAPORE) PTE LTD. は休眠会社であります。
2. 第一興商電子貿易(上海)有限公司は、2007年1月に新設いたしました。
3. 上海第一興商餐飲有限公司及び北京必愛歌餐飲服務有限公司は、2007年3月に解散いたしました。

新商品CM&企業CMがスタート！！



■「ワガママにタノシメ。」

CMイメージキャラクターに、モデル・女優・ミュージシャンとして人気の土屋アンナを起用し、「プレミアDAM」を思う存分楽しみながら、熱唱している姿でアピール。



■～ヒトは言葉より先に、うたいます。～
われわれは、歌をもっと未来に繋げたい。

歌う未来を引き継ぐ子供たちにスポットをあて、話す前の子供たちが確かに歌っている姿を軽快なリズムで表現しました。



Premier DAM High On Music ～My Music Style～

4月よりFM新番組始動!!
新CMと連動して、土屋アンナがレギュラーパーソナリティーを務めています。
J-POPアーティスト多数出演のこの番組をお聞き逃しなく!!

☆TOKYO FM:毎週金曜日 19:00～19:30
☆FM 大阪 :毎週木曜日 21:00～21:30

—— 第一興商 プレゼンツ ——

『歌スタ!!』

日本テレビ系列他、全国22局にてON AIR中!!

第一興商グループが提供する日本テレビ系列のシンガー発掘バラエティー番組『歌スタ!!』
新司会者としてM-1グランプリ2006年王者チュートリアルを迎え、装いも新たにパワーアップしています。是非ご覧ください!!

番組への出演は『DAMステーション』からのエントリーとなります。

詳しくは
<http://www.ntv.co.jp/utasta/>



19名
メジャーデビュー
(2007年5月現在)

—— 第一興商 プレゼンツ ——

『全日本カラオケグランプリ2007』開催決定

全国8ヶ所で予選を突破した計18組が全国大会へ出場し、2007年度グランプリを決定します。日本最高峰のカラオケNo.1は誰の手に?!!



地区予選会日程

9/15(土) 東北地区	9/30(日) 四国地区
9/17(月) 北海道地区	10/7(日)・10/8(月) 関東・甲信越地区
9/24(月) 東海・北陸地区	10/13(土) 関西地区
9/29(土) 中国地区	10/14(日) 九州・沖縄地区

決勝大会

11/23(金) 東京 中野サンプラザホール(テレビ東京系全国ネット他にて放送予定)

<お問い合わせ先> 全日本カラオケグランプリ2007事務局
TEL:03-3224-3778 受付時間:10:00～18:00(土・日・祝日を除く)
(詳しくは、<http://www.jpkaraokegp.com/>をご覧ください。)

おやじバンドフェスティバル in HIT STUDIO 60's

昨今、巷で盛り上がっているおやじバンド。そんなブームの中、八重洲にある「HIT STUDIO 60's」で第2回『おやじバンドフェスティバル』が開催されました。

当日は、団塊世代を中心に結成されたバンドが大勢集まり、本格的な料理を楽しみながら熱いバトルが繰り広げられました。今後も開催を予定しており、「HIT STUDIO 60's」がおやじバンドの聖地となる日もそう遠くないかもしれません。



株主優待

■株主優待のお知らせ

2007年3月末日を割当基準日とし、1単元株以上所有の株主様に、保有株式数に応じて当社グループが運営する「ビッグエコー」店舗、「ウメ子の家」・「びすとろ家」・「東風家」等飲食店舗でご利用可能な優待券(1枚1,000円相当)を発行いたします。

また、優待券をご利用できない場合は、優待券全額と引換えを条件に、当社グループ音楽ソフト子会社レーベル限定のCDとの交換が可能です。(但し、国内株主様に限り)

- 保有株式 100株以上1,000株未満/10枚
- 保有株式 1,000株以上/25枚

※株主優待をお受けいただくには、株主名簿及び実質株主名簿にお名前の記載または記録が必要です。 ※優待券有効期間:2007年7月1日～2008年6月30日

